

平成 30 年 6 月 13 日

関係各位

(一社) 沖縄県歯科医師会
 会長 真境名 勉
 (公印省略)

フッ化物洗口研修会のご案内

平素より本会会務運営に対しご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本会では、沖縄県委託「平成30年度沖縄県8020運動・口腔保健推進事業」の一つとして、標記に関する研修会を下記の通り開催することとなりました。

今回は、はごろもファミリー歯科 院長 神下 太一先生に『宜野湾市立大謝名小学校でのフッ化物洗口の取り組みについて』の実践報告と、長崎県歯科医師会 地域保健理事 俣野 正仁先生に『長崎県におけるフッ化物洗口推進の経緯』と題し講演していただきます。

つきましては、沖縄県歯科医師会事務局へ平成30年7月25日までにFAXにて(098-996-3562)お申込み下さいますよう宜しくお願い致します。

多数のご参加を賜りますようご案内申し上げます。

記

日 時：平成30年7月29日(日) 10:00~12:30

場 所：沖縄県口腔保健医療センター 2階 大研修室

対 象 者：歯科医師・歯科衛生士・医師・保健師・医療従事者・行政関係者

参 加 費：無料

実践報告：演題『宜野湾市立大謝名小学校でのフッ化物洗口の取り組みについて』

講 師：はごろもファミリー歯科 院長 神下 太一先生

時 間：10:00~10:30

講 演：演題『長崎県におけるフッ化物洗口推進の経緯』

講 師：長崎県歯科医師会 地域保健理事 俣野 正仁先生

時 間：10:30~12:30

講演内容：裏面

フッ化物洗口研修会申込書

医院名・所属	申込者名	職 種

※連絡先

TEL (_____) FAX (_____)

○実践報告

「宜野湾市立大謝名小学校でのフッ化物洗口の取り組みについて」

はごろもファミリー歯科 院長 神下 太一

沖縄県は、12歳児の1人平均う歯数において全国でワースト1の状態が続いており、その対策には個人や家庭での努力だけではなく、社会全体での健康づくりの取り組みが求められる。宜野湾市では、むし歯になりにくい生活環境の整備の一環として、大謝名小学校をモデル校としたフッ化物洗口を2018年2月から実施している。

今回は、学校現場での取り組みの様子など現状報告を主体としながら、フッ化物洗口の必要性、開始までの経緯、今後の課題など時間の許す限り紹介させていただく。

○講演内容

「長崎県におけるフッ化物洗口推進の経緯」

長崎県歯科医師会 理事（地域保健担当）俣野 正仁

前回の東京オリンピックが開催された昭和39年私は幼稚園生でした。就学時歯科検査のときに多くのむし歯があり恥ずかしい思いをしたことを今でもはっきりと覚えています。この「むし歯の洪水」と呼ばれた時代に歯科医師であった父は毎日早朝から夜まで押し寄せる方々の治療に精一杯対応していたと思われます。しかし当時にフッ化物洗口が行われていたらと思うと残念でなりません。私は自らの体験を通して「最も安全で科学的根拠に基づいた効果的なむし歯予防」を普及させるべきだといかなる場所においても強い意志を持って発言しています。本県では「長崎県歯・口腔の健康づくり推進条例」が全国で3番目、九州では初めて制定されました。先達の努力のお陰で「フッ化物の効果的使用の推進」が条文に記載されたにもかかわらず残念ながら推進には至っていませんでしたが、県知事の「部局を超え横断的に事に当たるべし」という号令で堰を切ったように一気に進むことができました。これまでフッ化物洗口事業に関しては「県・市・町が中心で私たち歯科医師会は学校歯科医という立場で専門家として最

大限の支持をします」というスタンスを貫いています。また学校歯科医が一枚岩となっていない
なければならないと思われます。さらに保護者、学校ならびに関係者に不安を抱かせることがな
いようにエビデンスに基づいた丁寧な説明や資料が必要です。

小学校の校長先生が「全児童の保護者の賛成が得られないと実施しない」と発言されました。
私は「実施を先延ばしにすることはリスクを抱えた子どもたちを放っておくことになりかねま
せん。私たちにはする責任もありますが、しない責任を取ることはできません。個人の意見で
実施を先延ばしにはしないでください」とお願いしました。実施までに反対活動等いろんな問
題もありましたが、一つずつ対応してきた結果、お陰様をもちまして2017年度中に小学校の全
施設で実施されています。また2020年度中には中学校におきましても全施設で実施されるもの
と考えております。

今回は長崎県における拙い経験をお話させていただきたいと存じます。

少しでもお役に立てれば幸いです。